

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和三年度六月 入賞句一覧

投句数 六百二十五句

度会 さち子 選

持選



行く春や村に正午のわらべうた

東京都世田谷区 関戸 信治

正午をしらせる村のチャイムがわらべ歌なのだろうか。しかし、こうした時報をしらせるチャイムは最近では少なくなつた。住む人も多様化した今、いろいろな考え方もあるのだろう。すべての人に歓迎されるのは難しい。だが、この村ではチャイムが生きている。どんな唄がながれるのだろうか。のどかな春の村の一日。行く春の季語もよく効いている。

梅雨湿り草の匂ひの灯をともし

三重県四日市市 後藤 允孝

そこら中がはじめじめと湿るような梅雨。梅雨の日はとりわけ匂いに敏感になる。雨に濡れた草の香もよく匂う。灯すのは、寺か社か、辻の地藏か、いや家の仏壇の灯かもしれない。あかあかとしたその小さな灯に、草の香を感じたという。雨にぬれた草の葉にもきつと灯が映っているかもしれない。詩情ゆたかな句である。

放牧の牛駆け出せり風五月

安八郡神戸町 高橋 日出美

初夏の牧場。放たれて牛も駆けだすような気持ちの良い日。牧場をわたる風は五月。人もたつぷりとそんな風に髪や服をなびかせ、牛をながめたりと、初夏の一日を満喫しているのだろう。牛の鳴く声もやがて聴こえてくる。白雲もゆつくり流れる。さわやかな牧場の感じがつたわつてくる。

秀逸

清貧に生き茄子の花愛しをり

愛知県名古屋市 舘野 茂子

振花のねぢれて茎を正しけり

大垣市 村田 通夫

鉄塔の天衝くところ初蕨

大垣市 大杉 すみゑ

ぶつかりつ蟻の一匹逆走す

大垣市 早苫 千恵子

蜘蛛の子の翁の杖に散らばれり

愛知県名古屋市 後藤 春子

窓若葉移し変へたる栞紐

大垣市 白井 秀子

夏近し付箋の多き旅雑誌

静岡県富士市 磯野 昭仁

天上に母を待たせてさくらんぼ

滋賀県大津市 丸岡 正男

梅雨に入る微かに湿る鐘の音

大垣市 森 茂寿

夏シャツの胸の高さへ跳ぶ赤子

大阪府堺市 椋本 望生

入選

一般の部

麦秋の真中やロバのパン屋さん

大垣市

高津 喜久子

田水張り輪中ひとつに繋がりぬ

大垣市

村田 通夫

春灯し古刹の奥に赤子泣く

不破郡垂井町

小坂 久美子

泰山木天に祈りの蕾解く

養老郡養老町

田中 紫香

茄子の苗植ゑてやさしき小雨かな

大垣市

矢代 由美子

五月雨の空見上げ編む草履かな

大垣市

鹿野 三地代

補助輪の兄追ふ妹さくらんぼ

大垣市

宇佐美 昭子

声明の呂あり律あり濃紫陽花

大垣市

久保田 悟義

廃校の褪せし落書五月闇

大垣市

鶴田 信子

思ひ出をまたとり出して更衣

神奈川県大和市

岩田 爾瑠

川風の吹き上ぐところ新樹光

不破郡垂井町

北村 廣美

谷底へ日のとどきをる岩魚の膳

大垣市

佐藤 すみ子

お納戸に昔の匂ひ桐の花

大垣市

宮脇 和子

くら闇に色まだあはき七変化

不破郡垂井町

久保田 紘義

踏んばりて赤子の一步緑さす

揖斐郡揖斐川町

栗野 みねお

蚊の音やなかなか切れぬ長電話

神奈川県川崎市

立野 音思

藻の花の光り弾ける流れかな

愛知県豊田市

城山 悠水

春日傘賽銭箱に立てかけて

大垣市

村瀬 佐智子

札所への百の石段青楓

岐阜市

辻 雅宏

朝の陽に緋目高の腹透けており

安八郡安八町

渡辺 うらら

選者吟

昼顔もどくだみも供花雲流る

さち子

